

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

| | |
|----------------------|--|
| ○当事者A | 年齢[36]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[13]年、階級[消防士長]、同様の活動[初めて]、任務[隊員] |
| ○当事者B | 年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動[]、任務[] |
| ○当事者C | 年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動[]、任務[] |
| その他 (当事者が4人以上の場合) | |

11. 事例発生の経過。

| | 誰(何)が | なにをした | その他・備考など |
|------|-------|---|----------|
| 経過1 | A | 中隊の撤収にあたり、警戒線配備の作業中、出火建物1階から炎が上がったのを確認した。 | |
| 経過2 | A | 中隊長の下命により、顔面保護版としころを着装し警戒線を延長し放水を実施した。 | |
| 経過3 | | | 突然炎が爆発 |
| 経過4 | A | 爆発の衝撃により顔面保護板及びしころを押し上げられ、顎と頬に痛みを感じた。 | |
| 経過5 | A | 中隊長の退避命令により放水を停止し退避した。 | |
| 経過6 | | | |
| 経過7 | | | |
| 経過8 | | | |
| 経過9 | | | |
| 経過10 | | | |

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
 ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった。周囲の視界が確保できなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

| | |
|--------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 | いいえ |

b. 注意力が欠如していた

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 | はい |
| ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 | はい |

c. 経験・知識が不足していた。

| | |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい |
| ・活動に対する経験が不足していた。 | いいえ |

d. 心身の不調があった

| | |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

| | |
|---------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。 | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。 | いいえ |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | はい |

g. 行動しにくい環境だった。

| | |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。 | いいえ |
| ・暑かった（寒かった）。 | いいえ |
| ・野次馬が多かった。 | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

| | |
|------------------|-----|
| ・足元が躓いたり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。 | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

| | |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。） | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。 | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

| | |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | いいえ |
| ・隊員が不足していた。 | いいえ |

○その他

l. その他の理由があった。

| |
|------------------------|
| はい：火源の物質に関する情報が不足していた。 |
|------------------------|

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

現場状況図



○負傷事故事例:残火処理活動中、火源が禁水性物質の炎に放水し、急激な化学反応により爆発し熱傷を負った事例
(同様の体験は、初めて体験した。)

(06F0044)

・発生日時 :平成18年 2月 午前9時頃

| 経過 | 現場の状況 | 隊員A | 備考 |
|----|--|--|---|
| | | 隊員/消防士長 ・年齢 36 歳 ・勤続 14 年 ・現場 13 年 ・同様の活動:はじめて | |
| 1 | | 建物火災(木造2階建て一般住宅)への出動 | |
| 2 | | 現場到着 | |
| 3 | | | 建物責任者は、受傷し病院へ搬送され、手当てを受けた後、管轄警察署へ確保された。 危険薬品に関する情報の収集が現場で不十分であった。 所属の中隊は撤収準備に入る 火源が禁水性物質と把握していない。 出火建物は一般住宅であるにもかかわらず居住者の趣味で危険な物質(金属ナトリウム)を保管していた |
| 4 | | 消火活動にあたる。 | |
| 5 | 鎮火した | | |
| 6 | | 残火処理活動へ移行する | |
| 7 | | 残火処理活動後の警戒線を準備中、 | |
| 8 | 建物1階中央部から少量の消火水と反応した禁水性物質(金属ナトリウム)を火源とする炎が上がる。 | | |
| 9 | | 出火建物1階から炎が上がったのを確認した。 | |
| 10 | | 中隊長の下命により、顔面保護版としころを着装し警戒線を延長し放水を実施した。 | |
| 11 | 突然炎が爆発 | | |
| 12 | | 爆発の衝撃により顔面保護板及びしころを押し上げられ、顎と頬に痛みを感じた。 | |
| 13 | | 中隊長の退避命令により放水を停止し退避した。 | |
| 14 | | 顔面に1度熱傷を負っていた。 | |
| 15 | | | |

◎負傷事故が起きたのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因：行動の実行に問題があった。
- ・危険情報を把握、予見できなかった。
 - ・周囲の視界が確保できなかった。

◎負傷事故が起きた背後要因

- (心理・体調について)
- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。
 - ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
- (活動環境について)
- ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。
- (その他)
- ・火源の物質に関する情報が不足していた。

◎負傷事故の対策例

活動環境の対策:情報収集の必要性を再認識し、災害現場に潜む危険性について検討、指導を徹底し、同種事故の再発防止に取り組んでいく。